



## 今年度のESDの重点目標（取組）

- 01 アフリカ支援の方法を考えよう
- 02 配膳後食缶空っぽキャンペーン

### 【令和4年度 ESD 実践報告】

#### 01 アフリカ支援の方法を考えよう



先進国と発展途上国の間では、様々な問題が生じている。その中の一つに経済格差があり、アフリカの人々の生活が豊かになるため経済成長が必要である。自分たちがどのような支援を行うことができるのか1年生の社会科の授業で話し合いを行った。支援の方法には、自立的な支援と全面的な支援があり、それぞれの課題に対して選択することが重要であると確認した。

自立的な支援では、基本的な知識・技能を支援し、その後は現地スタッフを派遣する形式が多い。地理でアフリカの特徴を確認し、食料の支援をするために農業の発展に有効であると意見が多くみられた。乾燥地帯のため栽培方法や管理方法に工夫が必要であり、短期的な支援では、環境を変えることができないなどの意見が多かった。

全面的な支援としては、経済的な支援やインフラ整備などが挙げられた。ある程度のまとまった金額で必要な物資を購入するものや、交通網や水道などのインフラを整備するなどの意見が多く上がった。

様々な支援をたくさんしてしまうと、植民地支配のような関係になるとの意見も出された。支援と支配の違いを明確にすることが大切であると確認した。また、個人で出来ることには、各国の課題を理解し、募金などを積極的に行うなどの意見が出された。



#### 02 配膳後食缶空っぽキャンペーン



様々な物価などが上昇している中で、給食の材料もその対象になっていることがニュースでも話題になった。勝中でも、各クラスで多くの残菜を出していることが、給食委員会で問題提起された。しかし、個人が食べられる量には限界があり、アレルギーなどで食べられない生徒もいるため、配食する量を一定にするなどを行うことはできない。

そこで、給食委員では、配膳が終わるときに食缶を空にした状態になるように、配膳を行った。例えば、食べられる量が少ない生徒は、配膳時に少なめにし、減らした分を次の人の給食に多くするなどの工夫を行った。一人の量を少しだけ多くするとたくさんの残菜を減らせることが分かり、無理なく給食を食べるようになってきた。

